

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	2	選択
担当教員			
菅原 亮芳 下山 寿子			
C (商学部)	T (教職科目)	ED (教育)	
授業のねらい (概要)	担当教員名 菅原亮芳 下山寿子 (複数担当) 高等学校の現場での教育実習を行う。原則として2週間から3週間。ただし、他の単位履修に支障がなく受け入れ校の許可が得られた場合は、延長しても差し支えない。「教育実践の研究 (3年次配当)」「教育実践の研究 (4年次配当)」に出席をし必要な手続きを終了したもの、また教職の所定の単位を履修したもののみが参加できる。『教職課程履修の手引き』を熟読すること。詳細については掲示板等で知らせるので見落としのないよう注意すること。実習終了後、「教育実習の記録」を所定の期日に提出すること。期日については、後刻掲示するので見落とさないようにすること。		
授業計画	第1回 【第1週】 授業観察・分析 学習指導案の作成・教材研究 指導教員とのコミュニケーション 生徒への積極的態度 予習 (時間) : 事前指導の総復習 実習に向かったの仮説の確認。(1000) 復習 (時間) : 教育実習の記録に記入。(800) 第2回 【第2週】 授業実習と省察 特別活動等の学校行事の観察と参加と分析 予習 (時間) : 事前指導の総復習 実習に向かったの仮説の確認。(1000) 復習 (時間) : 教育実習の記録に記入。(800) 第3回 【第3週】 教壇実習の省察と総括 教育実習全体への省察と総括 予習 (時間) : 事前指導の総復習 実習に向かったの仮説の確認。(1000) 復習 (時間) : 教育実習の記録に記入。(800)		
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	商学部 1. 職業人的倫理観を持ち、組織で協働できる力 2. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力		
到達目標	①教師としての必要な実践的指導ができる。 ②学習指導案を作成することができる。 ③学校現場で授業ができる。		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	教育実習の中間報告に関してアドバイスをを行う。		
履修上の注意	『教職課程履修の手引き』を熟読すること。とくに、「『教育実習』履修登録」を忘れないこと。「『教育実習』履修登録」と「教育実習オリエンテーション」の日時は追って掲示する。		
成績評価の方法・基準	事前・事後指導への提出物、「教育実習の記録」「教育実習体験レポート」「実習校からの評価」などから総合的に評価する。具体的な到達目標にあげた項目を身につけたかどうか試験やレポートを通じて確認する。		
教科書	高等学校教育実習ハンドブック・永添祥多他編著・風間書房・1980円		
参考書・教材	【参考書】『中学校学習指導要領』／『高等学校学習指導要領』【教材】各年度の『検証教育実習』・『省察集』は常時、携帯すること。		
備考	教育実践科目 他の科目の遠隔授業の実施時期に準じた形で適宜、遠隔授業、課題研究を含んで実施する。		
教員との連絡方法	携帯電話及びメール		